

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 調査報告概要表

作成日 平成19年10月1日

[評価実施概要]

事業所番号	0160590071
法人名	特別医療法人 恵和会
事業所名	アメニティ西岡水源地 グループホーム
所在地	札幌市豊平区西岡4条13丁目7番20号 (電 話) 011-584-0668
評価機関名	(株)日本プランニングセンター
所在地	札幌市中央区北6条西24丁目 YMビル
訪問調査日	平成19年6月27日

[情報提供票より] (19年6月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 09 月 15 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17人	常勤	14 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 10 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建て	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	55,000 (冬期間+1万) 円	その他の経費 (月額)	18000+実費 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	250 円	昼食 400 円
	夕食	350 円	おやつ 60 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (6月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	0 名	要介護2	8 名		
要介護3	2 名	要介護4	6 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.3 歳	最低	66 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	特別医療法人 恵和会 西岡病院
---------	-----------------

[外部評価で確認されたこの事業所の特徴]

住宅街にある立地環境の良いグループホームである。町内会活動や運営推進会議などを通じて積極的に地域住民との交流が行われており、ホーム全体が地域にとけ込むような努力が様々に行われている。介護サービス実施に当っては、介護計画策定段階で家族も参加できる機会を出来るだけ作り、家族と利用者との繋がりを意識的に創り出す配慮が行われたり、利用者自身がホームでの生活を安心して楽しく過ごすことが出来るよう、職員の専門性の研鑽にも力を入れている。運営主体が医療法人であり、医療機関との連携は、十分とられていて入居者にとっては安心な仕組みが整えられている。総合的に評価の高いグループホームと言える。今後は、一層必要性に駆られるターミナルケアなど、家族にとっても安心な、新たな取り組みが期待されている。

[重点項目への取り組み状況]

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況 (関連項目: 外部4)
	昨年の外部評価での指摘事項(「事故とその報告の後の再発防止策の効果への評価」が期待された)は、すでに改善がなされ、努力されている事が確認された。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
	自己評価はしっかりした共通認識の元、全スタッフが参加して行われており、ホームの様々な角度からの評価が行われている。自己評価の目的が、ホーム利用者の日々の生活の改善にあることが理解され、取り組まれている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
	各回、テーマを決めて開催。過去に開催した具体的な内容は、グループホームの地域における役割、認知症予防、認知症について地域の方々に理解を深めてもらうなど。ホームの様子を紹介するときには、スライドなども活用している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
	家族からの意見要望は常に検討され、ホーム会議等を通じてスタッフ全員で話し合うことが出来ている。こうした取り組みが利用者はもちろん、家族を含めた安心感を生み出しており、取り組みの一層の充実が期待される。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
	町内会活動に積極的に関わっている。機会がある毎にホームから出向いて、高齢者のケアに関するお話をする機会を得ており、さらに運動会・花火大会・盆踊りなど、様々な町内会行事にも積極的に参加して、地元町内会に入居者共々にとけ込む努力をしている。また、年二回のホーム便りを町内会を通じて地域住民向けに発行し、ホームの地域へのとけ込みをはかっている。入居者にとってご近所との繋がりが重要なことは言うまでもない。そうした取り組みが一層の充実へと向かうことが期待される。

(株)日本プランニングセンター

2. 調査報告書

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅰ. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「なじみの環境の中で、その人らしく、生き甲斐のある生活を提供する」ことを心がけるといふ、スタッフ全員によって考えられた理念と、法人理事長の「医療と介護を繋げる」ことを意識したサービス提供」という思いを、スタッフ全員が理解し日々実践の努力をしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は、理念を常に意識してサービス提供に取り組めるよう、理念を記載したネームプレートを常時携帯している。また、会議などにおいても、理念についての意識を常に持つように、管理者が理念の考え方や具体的な取り組み方などを職員に伝え、共有化を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域とのつながりを重視し、町内会活動などに積極的に関わっている。運動会・花火大会・盆踊りなど、様々な町内会行事に参加したり、年二回のホーム便りを町内会を通じて地域住民向けに発行したり、地域に届けたい努力をしている。その成果として、町内会に役員が協力的であり、ホームの前にゴミステーションを設置してもらったり、回覧版を回してもらえるようになった。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義をスタッフ全員に伝え、自己評価を全体で取り組む努力がなされている。前年の外部評価を踏まえた改善への努力が見られ、外部評価を生かした運営がなされている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではホームでの入居者の暮らしを伝えるのはもとより、地域の方々に認知症についての理解を得られるよう、認知症について地域に啓蒙するなど、毎回、幅広い話し合いがなされている。また、地域包括支援センターなど地域の資源との繋がりを一層強める努力もなされている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進協議会へ区の役員を参加してもらうなど、行政との繋がりも深めようと努力を行っている。	○	今後、行政との連携をより深めるためにも区の方に対して、区内の他のグループホームとも連携して、グループホームのサービス向上への協力を働きかけることを継続していただくことを期待する。
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームでの暮らしの様子は、毎月定期的にホームの「お便り」として家族に知らされている。日々の暮らしの様子や行事予定、訪問診療の予定、さらに入居者のお小遣いの残高など、家族にとって必要な情報がしっかり伝達されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見要望は常に検討され、ホーム会議等を通じてスタッフ全員で話し合うことが出来ている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は少ないが、異動の際の利用者への影響が極力少なくなるよう、努力がされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会等への参加の他に職員は、年間に一回は自分でテーマを決めて、そのことに関してホーム会議で発表して自らの専門性を高める努力がなされていて、専門性の向上やサービス向上に繋げる努力が継続的行われている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	区内の他のグループホームとの交流を意識的に持ち、ネットワークを通じた情報交換やサービスレベルの向上などの話し合いが定期的に行われている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	空き室等を利用しての体験入居が行われるなど、サービスの開始にあたっては、利用者が自然にサービス利用へと移行できるよう配慮がされている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と利用者との関係においては、なじみの関係になれるよう職員は心がけ、利用者と日々の生活を共にする共同生活者であることが理解できている。その中で楽しみや哀しみ・不安を共有する関係作りが心がけられている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者や家族とのお話などから、一人ひとりの暮らしの意向を把握する他に、入居者同士の話にスタッフはしっかり耳を傾け、日々の暮らしへの意向や希望をつかんでいる。意志の疎通が困難な入居者へは、本人の本意の希望をつかむ努力がされている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画への利用者・家族からの意見は少ないが、可能な限り利用者・家族の意見を反映する努力がなされている。	○	現在でも、家族とのコミュニケーションづくりについては、十分に努めているが、ホームとの連絡が疎遠になったり、ホームに依存している家族に対しても、意見・要望を聞きだす機会をできるだけ多く持てるようになることを期待する。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者や家族からの意見や希望を取り入れ、介護計画へ反映されている。介護計画は期間内に見直され、状態が変化する場合は期間内でも見なおし、再検討されている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療法人との連携など、事業所の多機能性を生かした支援が行われている。医療連携体制では受診や入院などに生かされているほか、早期退院などの支援や医療処置を受けながらのホームでの暮らしなど、その機能は十分に活かされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診のほか、必要に応じて、医療連携体制を生かし、協力医療機関からも適切な医療が受けられる体制が取られている。受診結果についての家族との共有にも配慮がなされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	管理者は、提携医療機関の方へ出向き、ターミナルケアについて説明を行なうなどターミナルケアについての理解が提携医療機関を含め法人全体で深まっている。現状では該当がないが、重度化した場合や終末期に対して対応できる体制が整えられている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーへの配慮は、ホーム会議等を通じてスタッフが共有し、管理者を中心に点検がなされている。利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応への努力がなされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの基本的な一日の流れはあっても、一人ひとりの体調などに合わせた日々の暮らしへの配慮がなされている。その時々入居者の気持ちを尊重した時間の過ごし方への工夫が行われている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは利用者と相談しながら決めるように工夫され、調理や盛り付けも出来る限り利用者が参加するよう努力されている。スタッフは利用者と一緒に食事をしながら、楽しい食事の雰囲気作りに努力している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は入居者の希望が優先され、入浴拒否者へも、様々な声かけを通じた入浴への促しが行われ、入浴を楽しむ配慮がなされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	役割を果たしたり、楽しみごとなどの場面作りが行われており、一人ひとりの入居者が、日々張り合いのある生活が出来るよう、配慮がなされている。また、役割を果たしたり、楽しみ事を終了したときには、感謝の言葉や成果への評価など、入居者の意欲を盛り上げる声かけなどが行われている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	心身の活性化が進むよう、外出は基本的に自由に行われ、希望によって買い物や散歩などの支援が行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアの努力が行われている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルが作成されており、避難訓練なども行われている。地域の協力体制も、運営推進会議等を通じて町内会と連携しながら進められている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分補給は常に、スタッフによって把握されており、記録表を持ってスタッフ間の共有が行われている。食事内容や残食等も把握され、日々の健康管理へと生かされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は贅沢に作られており、入居者は自由にその中から自分の居場所を選んでいる。共有空間は日々の生活の中で自分の家であることを実感できるような工夫が行われるとともに、季節感など五感への刺激に工夫がなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者はそれぞれがなじみの生活感を伴う家具などを、余裕ある居室空間に持ち込んでいる。使い慣れた日用品に囲まれて、居心地の良い居室作りへの配慮がなされている。		